

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

日独青少年指導者セミナーは、研修テーマ「困難を抱える青少年などの支援」に基づき、行政機関、関係団体、施設等での実地体験、青少年教育指導者との研究協議などを行うことで、日本の青少年教育等の現状と取組を理解したり、両国における青少年教育等を比較したりして、青少年教育指導者の資質・能力の向上を図るとともに、日独両国間の理解と親善を深めることを目的に実施する。

A1・A2 共通テーマ「困難を抱える青少年などの支援」

A2 テーマ 「社会全体で青少年を育む」

2. 事業の概要

(1) 期日

東京プログラム 平成27年5月11日（月）～13日（水）

岡山プログラム 平成27年5月14日（木）～18日（月）

東京プログラム 平成27年5月19日（火）～23日（土）

(2) 参加者

団長1名、団員8名、計9名

ドイツ連邦共和国在住の青少年教育行政、青少年団体等で指導者に当たる専門家で、ドイツ政府、ドイツ側実施機関であるドイツ連邦共和国国際ユースワーク専門機関・ベルリン日独センターから選抜された20歳代後半から60歳代の9名。

(3) 会場

5月14日 倉敷市芸文館

5月15日 ライフパーク倉敷 教育センター
吉備高原学園高等学校

5月18日 公益財団法人岡山市ふれあい公社北ふれあいセンター

(4) 講師等

岡山県教育庁義務教育課 生徒指導推進室 総括副参事	高山 公彦 氏
倉敷市教育委員会学校教育部 次長	渡辺 俊一 氏
倉敷市教育委員会学校教育部 指導主幹	平田 高明 氏
倉敷市教育委員会生涯学習部 生涯学習課 主幹	貝原 淳一 氏
倉敷市教育センター 館長	川西 隆 氏
倉敷市教育センター 指導主幹	藤井 朗 氏
吉備高原学園高等学校 校長	木畑 廣伸 氏

(5) 企画・運営のポイント

国際・企画課と連携を密に取りながら、困難を抱える青少年を社会全体で育むための、日本、岡山県ならではの取組みについてストーリー性をもって理解していただけるよう、訪問先や協議内容を企画した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
5/14 (木)	東京プログラム							岡山到着	研究協議 「不登校支援ネットワークの取組」			ホテル入室 フリータイム					
5/15 (金)	起床・洗面・朝食・ チェックアウト		移動	研究協議 「適応指導教室の役割と取組」			移動・昼食	不登校生徒を受け入れる 高校の取組			国立吉備青少年自然の家 オリエンテーション タベのつどい		歓迎パーティー	入浴 自由時間			
5/16 (土)	起床・洗面・清掃・朝食			ドイツ団ミーティング			昼食	ホームステイ 顔合わせ	ホームステイプログラム						就寝		
5/17 (日)	ホームステイプログラム																
5/18 (月)	ホームステイプログラム			ホームステイファミリーとお別れ会			移動	岡山到着	東京プログラム								

(2) 活動の状況①



【研究協議 不登校支援ネットワークの取組】



【研究協議 適応指導教室の役割や取組】



【研究協議】 不登校生徒を受け入れる高等学校の取組



【ドイツ団歓迎パーティー】



【ホームステイファミリーとのお別れ会】

4. 成果・課題

(1) 成果

ドイツ団との意見交換をテーマにそった効果的なものにするために、ストーリー仕立てにした。

まずは、岡山県での取組、そして倉敷市の取組、適応指導教室や高等学校といった現場での取組という形をとったことで、岡山県ならではの取組を紹介し意見を交換することができた。そのことにより困難を抱える青少年などの支援についての実態を知ってもらうことができ、一方でドイツ連邦共和国との違いについて学ぶことができた。

(2) 今後の課題等

ドイツ団はネット依存症対応について、吉備プログラムに期待していたようだが、このことについては、東京プログラムで深め、吉備プログラムでは岡山ならではのプログラムを準備していたことが、十分に伝わっていなかった。本部と地方担当施設の役割の確認や訪問先についての事前説明をより細かくしておく必要がある。

担当：企画指導専門職 河本 潤